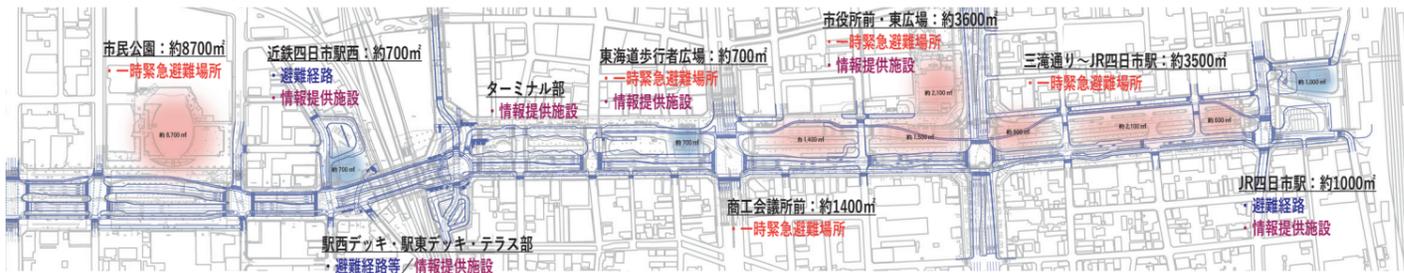


### 5. 共通のデザイン方針

中央通り全体が目指す空間像の目標として「共通のデザイン方針」を設定しています。

空間の使い方	空間の要素と配置	空間の質
目標1 居心地が良く歩きたくなる空間づくり 目標2 市域・他都市とつながる一大交通拠点づくり 目標3 最先端の取り組みのショーケースとなる空間づくり	目標1 歩行者を中心とした交通施設の配置 目標2 人が集い、賑わいを生み出す施設の配置 目標3 緑あふれる施設配置	目標1 市民の誇りとなる高質な空間の設え 目標2 歴史や緑を活かした空間の設え 目標3 使いやすく可変性を持った空間の設え

### 6. 災害時の使われ方

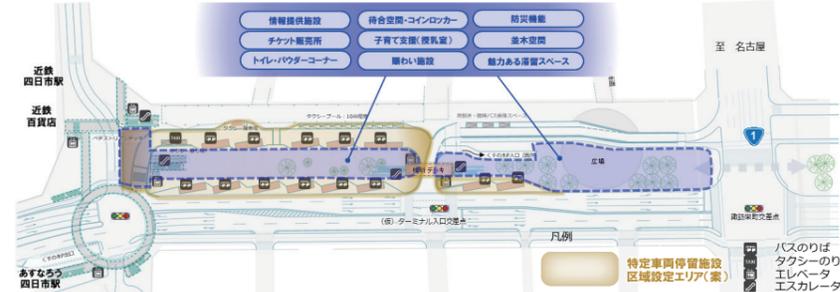


### 7. 交通結節点のデザイン (バスターミナルの整備に係る事項)

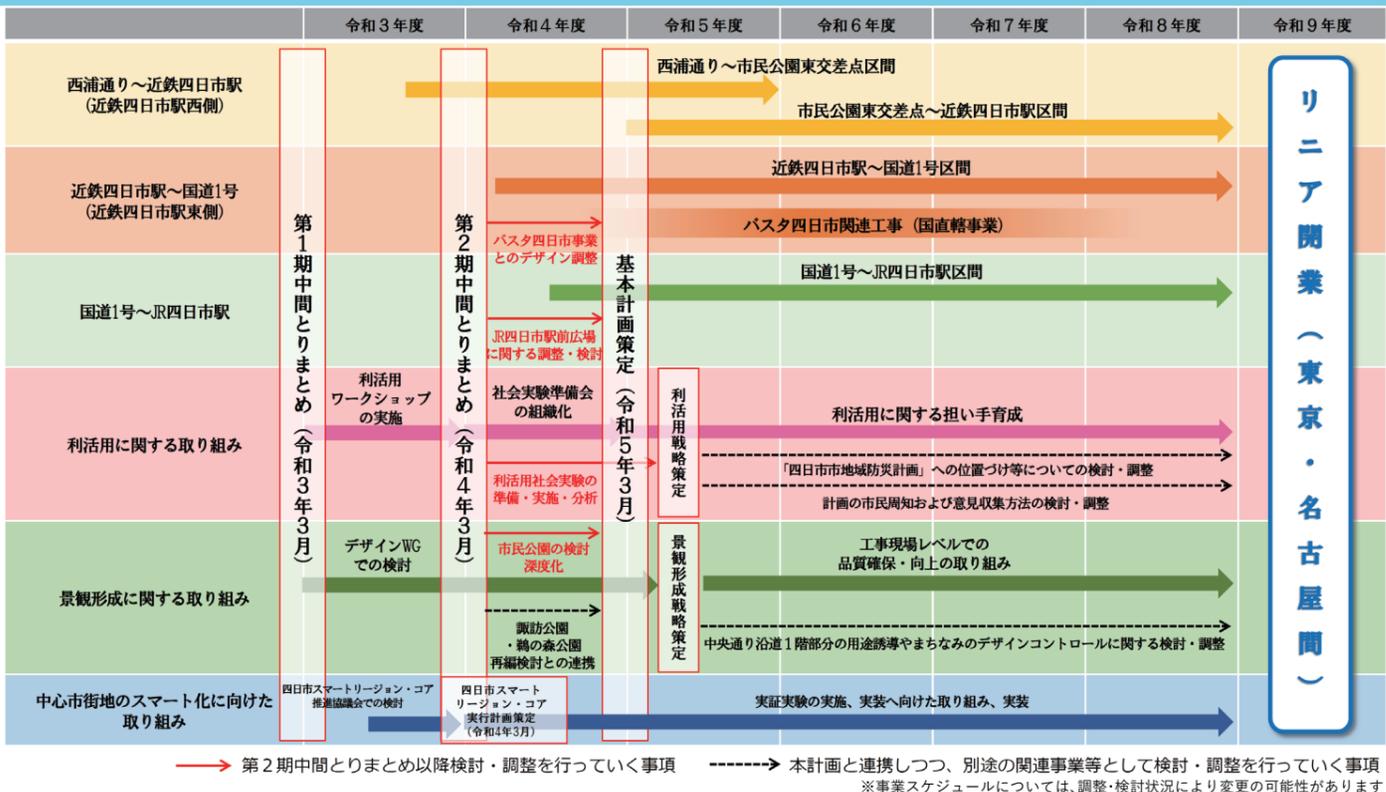
#### ■四日市バスターミナルの基本目標

- バス停の集約・スマート化による交通結節機能の強化
- 歩行者の円滑な移動・乗換を支援する交通拠点の整備
- 並木空間の再編による魅力あるスペースの創造
- 駅周辺と一体となった賑わい・歩行空間の創出
- 防災機能の強化
- 新たなモビリティや交通サービスとの連携

#### ■バスターミナルにおける施設配置方針



### 8. 今後の進め方 (事業スケジュール)



お問い合わせ先 四日市市 都市整備部 市街地整備課 三重県四日市市諏訪町1番5号 (本庁舎4F) 電話番号: 059-354-8200 FAX 番号: 059-354-8404

将来イメージ(近鉄四日市駅から四日市港をのぞむ)



### 1. 基本計画の目的・第2期中間とりまとめの位置づけ

#### ■基本計画の目的

基本計画では、下記の4つの目標を達成するために、中央通りの整備方針やデザイン、交通結節点(バスターミナル)のデザイン等を定めます。ここでいうデザインとは、表層の色彩や仕上げのこのみを示すのではなく、施設等のモノの配置・大きさから形態、色彩、仕上げといったハード的な視点から空間の利活用などのソフト的な視点も対象とし、ひととモノの適切な関係性を構築していく行為全般であり、この基本計画は、今回再編を行う中央通り全長約1.6km、幅員70mの広大な空間全体を「デザイン」し、関係者が一丸となってまちづくりに取り組むための指針となるものです。

目標①: まちなかの回遊性向上による賑わいの展開

目標②: 都市の魅力・暮らしの質向上による、東海地方をリードする、産業・交流拠点都市の実現

目標③: 広域連携強化による交流人口の増加

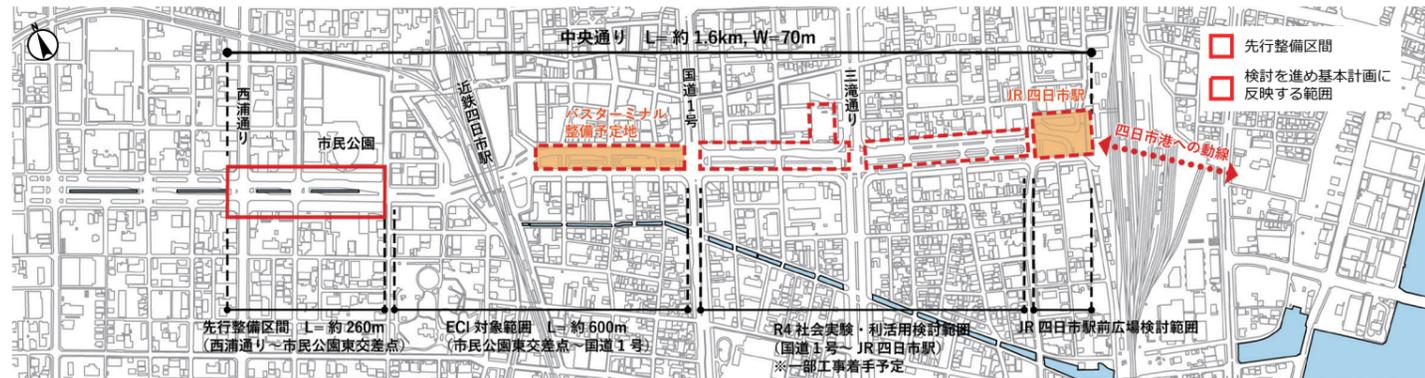
目標④: グリーンインフラの導入や防災機能の向上による環境・防災先進都市の実現

#### ■第2期中間とりまとめの位置づけ

令和3年3月に「近鉄四日市駅周辺等整備基本計画中間とりまとめ」を公表しました。その後、「中央通り再編関係者調整会議」をはじめ、関係者間で検討を進め、概ね全体のデザインの方向性(整備イメージ)が示せる段階となりました。そこで、最新の検討・調整成果を反映し、第2期中間とりまとめとして公表するものです。

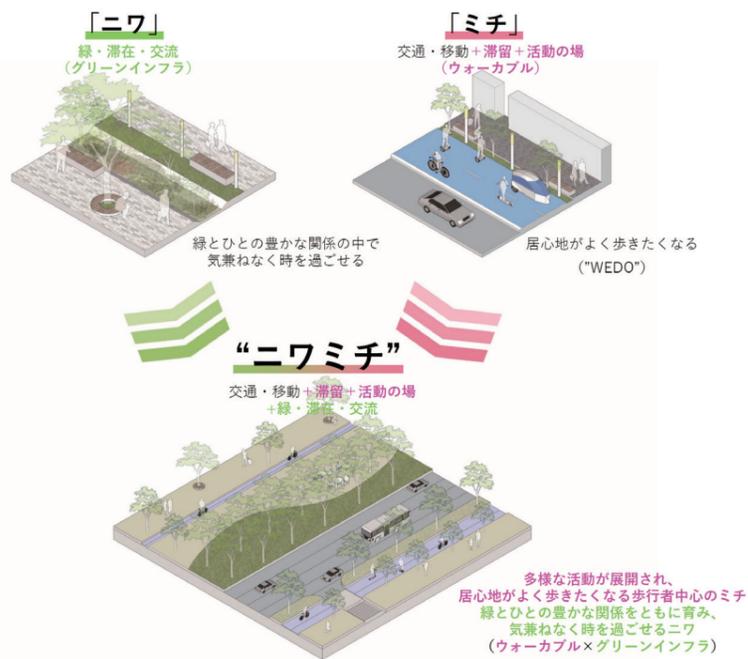
令和4年度には、近鉄四日市駅西側の先行整備区間が着工します。また、基本計画の策定に向けて、国道1号からJR四日市駅では、具体的な利用方法を固めていくための社会実験を予定するなど、引き続き、関係者間で調整や検討を進めていきます。

#### ■先行整備区間と基本計画策定に向けてさらに検討を進める範囲



## 2. 基本計画のコンセプト

「ニワミチよっかいち」ー山を望み港へ結ぶ歩きたくなる中央通りー



中央通りでは、歴史の中で育まれてきたクスノキ並木の豊かな緑を活かし、自然との関わりの中で質の高い暮らしを実現する「グリーンインフラ」となる“ニワ”に、近年道路空間再編の主流になりつつある、歩行者を中心として交通だけでなく滞留や活動の場といった機能も取り入れた「ウォークアブル」な“ミチ”を掛け合わせた、“ニワミチ”をコンセプトとしました。

「ニワミチよっかいち」という言葉には、緑とひとの豊かな関係をともに育んでいながら、自由に立ち寄り、気兼ねなく時を過ごせる「ニワ」の役割に加え、歩行者中心の考え方に基づきつつ、市民が自分の空間として使い、様々な出来事に出会い、歩きたくなるような「ミチ」の役割を担ってほしいという意味が込められています。

“ニワミチ”の実現は、都市の発展の過程で公害を経験してきた四日市市が、環境先進都市として今まで以上に環境に配慮し、人々に生まれ、選ばれ、住みたくなるまちになる「リーディングプロジェクト」となるものです。

## 3. 4つの視点と中央通りの整備方針

基本構想で整理された3つの視点に「社会情勢の変化への対応」を加えた4つの視点に基づき、中央通りの空間を構成していきます。

### 視点①：賑わい・もてなし空間の創出と回遊性の向上 「顔・賑わいづくり」

- 西浦通り～市民公園東区間は、中央島を残し南北の車線数を減少
- 近鉄四日市駅東～JR四日市駅区間は、南側に車線を集約し、歩行者空間を確保

### 視点③：中央通りを活用した空間の魅力向上 「空間の魅力向上」

- 全線を通じて、歩行者空間を最大化し、歩きたくなる空間の素地をつくる
- 緑豊かで高質なデザイン/都市景観形成の軸として空間の魅力向上

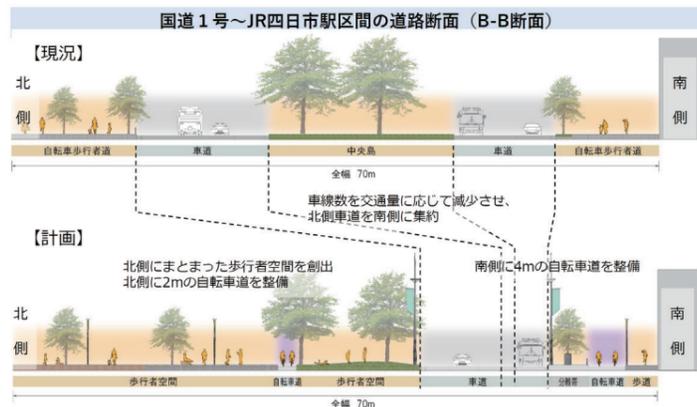
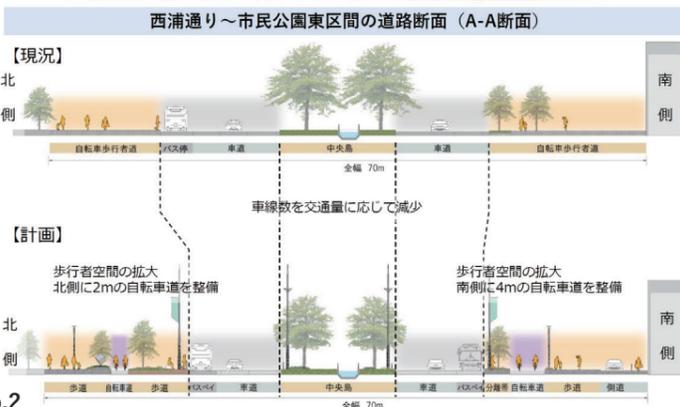
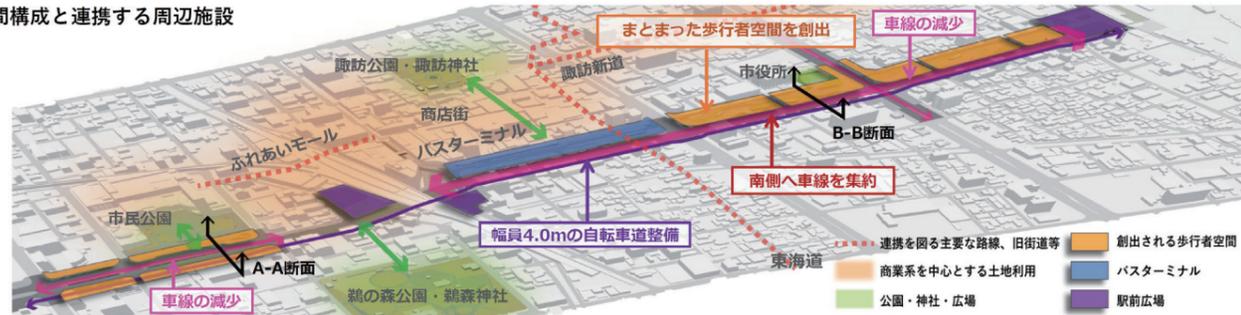
### 視点②：まちづくりと連動した交通機能の配置 「交通機能強化」

- 近鉄四日市駅東側にバスターミナルを集約
- 周辺の各種公園、バスターミナル、商店街等周辺施設と連携

### 視点④：社会情勢の変化への対応 「スマート化、レジリエンスの向上」

- 南側自転車道は、将来的な次世代モビリティの走行を見据えた幅員 (4.0m)
- 災害時などの非常時を想定した、避難空間を確保

### ■空間構成と連携する周辺施設



## 4. 将来イメージ

